

会 報

事務局

北海道江別高等学校

〒067-8564

江別市上江別 444-1

TEL 011-382-2173

FAX 011-382-2770

~~~~~ 卷 頭 言 ~~~~~

「新学習指導要領への移行に向けて」

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会長

北海道有朋高等学校副校長 上野 秀俊

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、日頃より本部会の運営・諸事業の推進にご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。また、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会定通部会をはじめ関係諸機関には、多大なるご支援とご指導を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会では、全体テーマを「教育新時代に対応した定通教育の創造～新学習指導要領の基本方針と方向性を踏まえて～」とし、①多様化した生徒に応じた定通教育の改善と充実を図る、②勤労青少年の就学条件の改善及び就学の促進する、③教職員の定数及び待遇の改善、④組織及び事業の充実と活性化を図る、以上の4点を事業目標に掲げ各種事業に取り組んでいるところです。また、調査研究活動では、12の研究課題を設定し、確かな学力を育む指導の実践や教育課程の編成、学校評価や地域との連携、キャリア教育の推進、いじめ防止などの調査研究活動により定通教育の充実を図っています。

新学習指導要領は、平成31年度(2019年度)から移行措置に入り2022年度から年次進行で実施されます。高等学校の改訂の基本的な考え方は「未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成すること。知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること。高大接続改革の中での改訂であること」に基づいています。そのため、高等学校においては「何のために学ぶのか、何ができるようになるのか」という学習の意義を明確化し、「知識および技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点から新学習指導要領を考える必要があります。また、生涯にわたって探求を深める未来の創り手として社会に送り出すには、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が必要であり、教科等横断的な学習を充実させたり、授業の中で習得・活用・探求のバランスを工夫したりすることが重要となり、学習の効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの確立も求められます。

今日の定時制・通信制高等学校は、働きながら学ぶ生徒だけでなく、様々な入学動機や学習歴を持つ生徒が学んでいます。また、生徒の多様化が進む中、多様な学習ニーズに対応する役割を果たしており、不登校・中途退学経験者等への学び直しの機会提供など、困難を抱える生徒の自立支援等の面でも大きく期待されています。

定通教育の特性を活かしながら、生徒の実態に応じた、創造的、効果的な教育活動のより一層の充実のために、定通教育にかかわる教頭・副校長間の連携を深めていくことは大切です。この一年間の会員の皆様のご協力に感謝申し上げます、巻頭の辞とさせていただきます。

課題解決力の向上を

北海道高等学校長協会 定通部会長
北海道有朋高等学校長 蓑島 崇

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、日ごろから定時制・通信制教育の充実・発展に御尽力をいただいていることに感謝申し上げます。

今年度は、大きな地震や強い台風、過去に例のない集中豪雨等が日本全国で発生した一年となりました。北海道では、9月に最大震度7を記録した北海道胆振東部地震が発生し、高校生を含め41名もの尊い命が奪われました。また、負傷した方、住まいを失った方も多く、災害の傷が癒えるまでには、今後さらに多くの時間が必要だと思われます。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早く日常を取り戻せることをお祈りいたします。

また、この地震では、北海道全域での電源消失、ブラックアウトという過去に例のない事態が発生し、震源地から遠く離れた地域でも日常生活への影響がありました。北海道内のほとんどの高等学校でも何らかの影響を受けたところであり、教頭・副校長の皆様には、それぞれの学校の状況に応じて、復興に向けた取組を迅速に進めていただいたことと思います。

このように震災直後の混乱した状況の中、エレベーターが使用できなくなったマンションの高層階に住む高齢者宅へ水を運ぶボランティアを、一人の高校生がSNSを使って呼びかけ賛同者の輪が広がったということが話題になりました。自分の回りで課題が見つかったとき、解決ために何が必要かを考え、行動を起こすということは簡単にできることではありません。

このような「力」をこれからの時代を生き抜く生徒に身に付けさせていくことが必要なのではないのでしょうか。

さて、2022年度からの新学習指導要領実施に向け、来年度から3年間の移行期間に入ります。各学校では新学習指導要領の趣旨を生かした教育課程編成の取組が待ったなしの状況となっており、教頭・副校長の円滑な学校運営への期待が一層高まっています。皆様には、これまでもそれぞれの学校において、管理職としてのリーダーシップを発揮していただいているところですが、今後は定通部会のネットワークをこれまで以上に活性化し、全道の教頭・副校長間の連携を密にしながら日々の研鑽を深めることで管理職としての資質の向上に努め、各学校の課題解決に大いに貢献していただくようお願いいたします。

平成30年度 事業報告

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長
北海道江別高等学校 教頭 渋谷 圭

日頃より事務局の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年度の事業につきましては当初の計画通りに実施しております。これもひとえに会員の皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。ありがとうございました。

● 北海道の事業報告

No.	期日	事業計画	内容及び出席者
1	平成30年 5月16日(水)	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会 (会場) ホテルライフォート札幌	内容：事業・会計報告、事業計画、予算案審議、 研究協議 出席者：45名
2	5月16日(水)	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会 (会場) ホテルライフォート札幌	内容：報告事項、事業計画、予算案審議、 定通体連運営協議 出席者：45名
3	6月4日(月)	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・ 研究協議会(会場) ホテルライフォート札幌	内容：事業・会計報告、事業計画、予選案審議、 研究協議 出席者：54名
4	7月25日(水)	◆第50回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会 (会場) 札幌北高等学校	内容：講演、研究協議 出席者：43名
5	10月10日(水)	◆第62回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会(会場) 札幌市教育文化会館	内容：生徒生活体験発表 出席者：152名
6	平成31年 3月上旬	◆平成30年度調査研究部報告書発行 ◆「会報」発行	内容：調査研究「特別な教育的支援を必要とする生徒への手だてについて」

● 全国の事業報告

No.	期日	事業計画	内容及び出席者
1	平成30年 5月7日(月) ～8日(火)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 校長並びに教頭・副校長研究協議会 (会場) 山形県立霞城学園高校(山形市)	内容：事業報告、事業計画、予算審議 出席者：有朋高教頭 計1名
2	6月1日(金)	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) (会場) 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	内容：全教協大会議案審議、講演、研究協議 出席者：部会長、事務局長 計2名
3	6月13日(水) ～15日(金)	◆第70回全国高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会(全通研大会) (会場) ひめぎんホール(愛媛県松山市)	内容：総会、研究協議 出席者：有朋高校校長・副校長ほか 計6名
4	7月26日(木) ～27日(金)	◆第70回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 総会・教育研究協議会(全教協大会) (会場) ホテル東日本盛岡(岩手県盛岡市)	内容：全国理事会、総会、講演、研究協議 出席者：部会長、事務局長ほか 計3名
5	8月2日(木) ～3日(金)	◆第69回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 (全振大会) (会場) コラッセふくしま(福島県福島市)	内容：報告、研究協議 出席者：有朋高校校長・教頭ほか 計4名
6	8月23日(木) ～24日(金)	◆全国高等学校給食研究協議会 理事会・総会 (会場) 東京都学校給食会館	内容：理事会、総会、講演、研究協議 出席者：札北高校長 計2名
7	10月25日(木) ～26日(金)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会(地区通研大会) (会場) ウェディングプラザアスカ(青森県青森市)	内容：報告、講演、研究協議 出席者：有朋高校校長・教頭ほか 計6名
8	11月24日(土)	◆第66回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会 (会場) 六本木ヒルズハリウッドプラザ(東京都)	内容：生徒生活体験発表 出席者：生徒・引率教諭 計4名
9	12月6日(木) ～7日(金)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 教頭・副校長研究協議会 (会場) カレッジプラザ(秋田県秋田市)	内容：平成30年度事業中間報告、研究協議 出席者：有朋高教頭 計1名
10	12月14日(金)	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) (会場) 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	内容：平成30年度事業中間報告、研究協議 出席者：部会長、事務局長 計2名

第70回全国高等学校通信制教育研究会
愛媛大会・研究協議会報告
北海道有朋高等学校 副校長 上野 秀俊

期 日 平成30年6月14日(木)・15日(金)

会 場 ひめぎんホール(愛媛県松山市)

今年度の全通研には全国の加盟校や関係機関から366名が参加し、実践発表や研究討議を行いました。

第1分科会(学校運営)

◆研究テーマ1

『定時制発足70年 課題の変遷と今日的対応策』

(本部発表)

神奈川県立横浜修悠館高等学校

校 長 原 口 瑞

学校法人日出高等学校

副校長 井 原 涉

神奈川県立横浜修悠館高等学校

副校長 米 田 朋 正

埼玉県立大宮中央高等学校

教 頭 吉 田 純 忠

茨城県立水戸南高等学校

教 頭 栗 田 武 志

栃木県立宇都宮高等学校

教 頭 高 山 緑

群馬県立太田フレックス高等学校

教 頭 飯 嶋 幸

1 概要

「全通研大会第1分科会の発表議題」を昭和24年度までさかのぼって調査し、70年間にわたる通信制教育における課題の歴史的変遷を振り返るとともに、平成29年度に全通研常務理事を中心に設置された「通信制教育あり方研究委員会」によるアンケートの報告があった。

アンケートは全通研加盟118校中、95校から回答。(回答率80.5%)

2 アンケートから

(1)非活動生徒(非受講生徒)の状況

・在籍者に閉める非活動生徒の割合は、この3年間においては大きな変化はない。10%未満は約4割であるが、70%以上の学校もある。公立と法人立を比較すると、法人立の多くは10%未満であり、30%以上の非活動生徒が在籍している学校はない。一方、公立では、30~50%の非活動生徒が在籍している学校の割合が高くなっている。



(2)非活動生徒に対する指導

・公立では、文書・電子メールによる指導が半数を超えているが、法人立では、文書・電子メールや電話・面談など、2つ以上の方法を用いた踏み込んだ指導が中心である。

(3)活動生徒としての復活の機会

・多くは『次年度まで復活の機会なし』であるが、前期に休学でも後期に復活のチャンスを与えるなど学期毎に機会を設けているところが公立13校、法人立12校ある。

(4)非活動生徒に対する新たな指導の計画

・計画ありまたは検討中が23校、考えていないが66校であったが、非活動生徒に対して、今まで以上の指導の方策が必要だと考える学校がでてきている。

(5)最近の入学生の傾向

・在籍生徒数は減少傾向にある。平成28年度入学生では、転編入学生数の方が新入学生数を上回っている。

(6)生徒の在籍年限、除籍規定

・在籍年限は、公立では8年、法人立では6年としているところが多い。
・3/4の学校で除籍規定がある。

- (7)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた動き
 ・多くの学校で報告課題や面接指導の改善が進められているが、改善の計画なしの学校もある。
- (8)災害など有事の際の対応について
 ・登校日ごとに生徒の顔ぶれが変わる通信制において、災害時などの安否確認や避難経路の確認等は課題であるが、地域と連携して対応している学校もある。
- (9)広報について
 ・通信制の特色を中学校の教員等に知ってもらうため、多くの学校で学校説明会や中学校訪問を実施している。

3 まとめと提言

- (1)「いつでも どこでも だれでも」という通信制高校発足時の教育の機会均等の精神 を忘れず、新たな課題の解決にあたる。
- (2)「非活動生徒」及び履修登録しているにも関わらず、添削指導への取組や面接指導への参加が困難な生徒については、学校側からの適切なアプローチが必要である。
- (3)通信制高校らしい「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けたレポート作成、添削指導、スクーリングのために自校でできる工夫を他校の実践から学びとる積極的な姿勢が必要である。
- (4)自校での「通信制教職員の教育力を高める研修」「中学校教職員及び全日制・定時制課程の教職員への研修」を充実させ、全通研、地区通研で発信し、行政機関が組織的、制度的な研修制度を立ち上げる一助とする。
- (5)「緊急時マニュアル」をもとに、生徒及び学校職員と地域や連携機関との組織的な防災訓練計画を立て、できる限り早期に生徒の安全確保に係る取組を実施する。



◆研究テーマ2

『新しい時代のニーズに対応する通信制高等学校教育を目指して』

学校法人八洲学園八洲学園高等学校

教 頭 吉 田 士 文

1 概要

ここ10年で高校生の数が大きく減少しているが通信制高校の学校数は増加、生徒数はほぼ横ばいとなっている。このような状況の中で生徒が通信制教育に求めるニーズの変化を捉え、通信制高校役割や学校の今後について展望する。

2 学校について

- ・関西・関東合わせて8か所の学校(分校・キャンパス)持つ広域通信制の学校。生徒数は、今年度1,448名。この10年で半減している。昨年度の1,344名から今年度は一転して100を超える増加となった。

3 特色ある取組

- ・従来は「働きながら学ぶ」が主であったが、「自分のペースで学びたい」「ゆっかくりと人間関係を身につけたい」「専門的な学習をしたい」などのニーズに応えるため、新たな取り組みとして次の5点を行う
 - ①自学自習の精神からサポート体制の確立へ
 - ②履修科目の選択肢から学習スタイルの選択肢へ
 - ③各種教材の見直し、オリジナルメディア視聴教材を開発
 - ④能動的に行う不登校指導
 - ⑤成績管理などシステム充実による職員負担減
- 成績管理システムの運用について、多い年で100万円程度の投資が必要である。
- ・クラス編成を見直し、これまでの通信クラスだけでなく、ほぼ毎日登校させるクラスや、自宅訪問による学習支援を行うクラスも編成した。最近5年の間に、通信クラスの在籍割合が6割から4割程度に減少し、毎日登校するクラスや柔軟に時間割を決定できるクラスの在籍者が増加している。
- ・5年生クラスの運営により、高校を3年間で卒業しなくてはならないという常識を見直した。
- ・教員スキルの向上として、専任・常勤教員全員が「特別支援学校教諭第2種免許」を取得した。
- ・勤務時間については、業務の効率化・平均化に向けた取組を行い、時間外勤務時間の平均で、年間90時間減となっている。

平成30年度 全国高等学校給食研究協議会
第48回全国大会 報告
北海道札幌北高等学校 教頭 斉藤 智英

平成30年8月23日(木)、24日(金)に平成30年度全国高等学校給食研究協議会第48回全国大会が東京都学校給食会館にて開催された。北海道高等学校給食研究協議会からは、宮下聡 会長(札幌北高校長)と斉藤智英 幹事・事務局長(札幌北高教頭)が出席した。

1 ブロック会議

昨年度から、北海道ブロック(東北全県が退会したため)となったため、北海道・東京ブロック(単一構成ブロック同士の合体)での会議となった。

2 総会《議長 宮下 聡 副会長(北海道会長)》

(1) 平成29年度会務報告・会計決算

平成30年度役員改選・事業目標・会計予算

(2) 今後の運営について

(3) その他

最後に、宮下議長(北海道会長)から、北海道高等学校給食研究協議会は、給食業務民間委託校増加、入学者の減少等の理由から、本年度末(H31.3.31)をもって全国組織から退会する旨を提案し、了承された。

3 第48回全国大会

(1) 講演会

演題 「子どもの貧困 現状と課題」

講師 子どもの貧困センター 公益財団法人あすのば

代表理事 小河 光治氏

(2) 研究協議会

1) 報告

内容 第3示食育推進基本計画と日本型食生活・地産地消のススメ!

講師 鶴岡 佳則 氏

2) 研究発表

①北海道高等学校給食研究協議会

北海道札幌北高等学校 教頭 斉藤 智英

②長崎県高等学校給食研究協議会

長崎県立鳴滝高等学校 教諭 奥野 禎浩

③東京都高等学校給食研究協議会

東京都立足立高等学校 主幹教諭 阿久井正己

3) 指導講評

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 永井 愛 氏

第69回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・
研究協議会(福島大会)参加報告
北海道有朋高等学校単位制Ⅱ・Ⅲ部
教頭 谷 尊 仁

第69回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・研究協議会が平成30年8月2日(木)、3日(金)の2日間の日程で、福島市にある「コラッセふくしま」を会場として開催されました。

今大会のテーマは「ふくしまから発信しよう～たくましく生き抜く力を育む定通教育の推進」という内容で全国各地から代表が集まり、有意義な研究協議と情報交換が行われました。

大会1日目は、午前中から行われた理事会・評議員会、各県代表者会議に続き、午後から島村宜伸会長、林芳正 文部科学大臣、内堀雅雄福島県知事の挨拶をはじめとした開会行事・総会・記念講演・研究協議Ⅰ・Ⅱ、場所をザ・セレクトン福島に移して教育懇談会が行われました。総会では、平成29年度会務報告・事業報告と平成30年度事業目標・事業計画の報告がありました。

開会行事後の記念講演では、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク理事・事務局長、福島大学総合教育研究センターの前川直哉特任准教授から『ふくしまから発信 震災から復興へ学びによる挑戦の歩み』という演題で、ご自身が阪神淡路大震災を体験し、京都で高校教諭をしていたときに、東日本大震災が起こったときに、在職校の生徒とともに福島・宮城の被災地を幾度となく訪れ被災した子どもたちに自分たちが成長することによって、支えられる側から支える側になり、その事は「学ぶ」ことが大切であることを理解させることであるということに基づいた講演がありました。

研究協議では定時制の現状と課題をテーマに2日間にわたり4校の取組が紹介され、熱心な研究協議が行われました。

大会2日目の後半には、文部科学省、厚生労働省から質問・要望事項について、①「高等学校等就学支援金」制度について②外国にルーツをもつ生徒に対する支援の拡充について③柔軟な教育課程の編成について④夜間のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置⑤外国人生徒等への支援事業の拡大について⑥職員定数増員について⑦性同一性障害の生徒の対応について⑧主権者教育等に係る情報窓口について⑨定時制生徒の積極的な雇用について⑩働き学ぶことが実現できる求人情報提供についてなどへの回答があり、大会宣言を決議して大会を終了しました。

第66回全国高等学校定時制通信制生徒

生活体験発表大会参加報告

北海道東藻琴高等学校 教頭 森北 光一

平成30年11月24日(土)、東京都港区の六本木ヒルズハリウッドプラザを会場として、平成30年度第66回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催されました。北海道からは本校生徒と北海道有朋高等学校生徒さんの2名が出場しました。全国の定時制通信制高等学校に学ぶ生徒が学校生活や、日常生活の中で感じたことや学び得たことを7分という時間の中に凝縮して発表することで、多くの人々に感動と励ましを与える大会でした。

文部科学省初等中等教育局長賞奨励賞を受賞した本校生産科学科3年布藤和花さんの発表内容をご紹介します。



第66回全国定時制通信制生徒生活体験発表大会

文部科学省初等中等教育局長賞 奨励賞

第62回北海道定時制生徒生活体験発表大会

最優秀賞 北海道知事賞 北海道新聞社賞

NHK札幌放送局賞

北海道東藻琴高等学校 生産科学科

3年 布藤 和花

「第二のふるさとで見つけた私の夢～

地域で学んだ未来の農業経営のカタチ～」

「このままやったら、北海道の農業はアカン！」

私の故郷である大阪府岸和田市は全国的にはだんじり祭りが有名で、農業はあまり盛んではありません。そんな私が、農業に興味を持ったのは、中学生の頃に両親とともにオホーツクを観光したときに食べた生乳100%のアイスクリームのおいしさに感動したことがきっかけです。「北海道で農業を学びたい」という思いは、進路決定まで変わることはなく、あの日訪れたオホーツクで学べる、この東藻琴高校に入学しました。

「高校を卒業したら、北海道で農業がしたい。」入学当初はそう考えていましたが、ある人との出会いが私の夢を大きく変えました。

その人は、東藻琴の酪農家、増子昭雄さん。大阪から来た私は、高校の寮が閉寮となる休日に、増子さんの家で生活をし、農作業を手伝っています。

増子牧場は飼養牛頭数約四十数頭の、北海道では非常に小さな牧場ですが、「牛にとって世界一幸せな牧場にする」ことをモットーに、夏は青草を食み、冬は雪原の中走りまわられるように、外で放牧して飼育しています。増子牧場で初めて間近で牛を見たときは、正直に言えば「怖い」の一言。しかし、毎週末、牛と接するうちに、一頭一頭の模様や性格の違いに気が付き、「牛にも個性があるんだ」と思うようになりました。また、仔牛の誕生の瞬間に立ち会ったときには、生まれたての仔牛の姿に胸を打たれ、いつの間にか牛に対する恐怖心は消えていきました。「牛って、かわいい。」そんな風に思えるようになってからは、搾乳はもちろん、牧草ロールのラッピングやミルクカーの移動など、多くのことを一人でもできる程に成長しました。

増子牧場は、日本中央酪農会議が認定する酪農教育ファームで、夏場には道外の方が搾乳体験に訪れます。酪農未経験者に一から仕事を教える増子さんを見て、私は不思議に思いました。「ただでさえ忙しいのに、そこまでやって農業経営上にメリットはあるのだろうか。」増子さんに尋ねるとこう答えてくれました。「ただつくるだけの農業を続けたら、未来の農家はなくなる。」

私は、最初この言葉の意味がよくわかりませんでした。が、農業の学習をとおして地域の農業に関する様々な課題があることを知りました。

一つ目は、若い人に農業の魅力を伝えられていないことです。

農業の授業で、北海道の農家は、家業後継が減り、法人経営が増えていることを先生から教わりました。少子高齢化の進む日本社会では、農業従事者は減少の一途をたどっていますし、田舎で就農をしたいと考える若者は、まだまだ少ないのが現状のようです。「北海道農業の魅力をもっと多くの人に知ってほしい！」

そこで、私は増子牧場に体験に来た子どもたちに、搾乳以外に少しでも農業の驚きや発見を与えたいと考えました。農業に興味を持ってもらうため、京都から来た観光客には、増子さんのおばあちゃんと一緒に生乳でアイスクリームを作りました。小学生の男の子は自分の手で初めて作ったアイスクリームをワクワクしながら口に運び、「すごくおいしい！」と、とても喜んでくれていました。些細なことですが、私はその笑顔を見て、農業経営者自身が農業の魅力を伝えることの大切さを学びました。

二つ目は、地域農産物の魅力を伝えられていないことです。

東藻琴では、近隣の農家が「ノンキーマーケット」という一つの組織として集まり、それぞれに栽培した生産物をジャムなどの加工品にして販売する六次産業の取組を行っています。増子さんのおばあちゃんも女性部の一員で、私も集会に参加させてもらっていました。農家の方々は自分の生産物に絶対の自信を持っていますし、実際に加工品の味は絶品です。これらの商品は増子牧場に来る観光客にも振る舞われ、「濃厚でおいしい」などと高評価を受けています。しかし、定期販売は地域の道の駅と限定的なため、地域外への発信力は少し低いように感じました。

そこで、私は本校の販売会「東高交流マルシェ」で、ノンキーマーケットをはじめとする地域商店街の自慢の特産品の一つにしたオリジナルギフトセットを生徒会の仲間たちと考えました。パッケージや商品 POP もノンキーマーケットの方と相談しながら進め、当日は

用意した商品を完売することができました。

3年生になった今、私は農業情報処理で学んでいるヤフー株式会社とのデジタル人材育成プログラムで学んだ知識を生かして、インターネットを活用して自慢の製品を多くの人に広める技術を学んでいます。私の取組は、まだまだ課題の解決とまでは行きませんが、これらの経験をとおして、ただつくるだけでなく、つくった商品の魅力を伝えることの大切さに気付くことができました。

大阪から来た農業未経験の私にとって、ここでの三年間は毎日が驚きと発見に満ちていました。農業の辛さ、大変さを実感として学んだ今だからこそ言えます。

「農業って面白い！」北海道の農業をこれからも守り続けるために、私は酪農学園大学に進学し、「先生！私は農家になる」と子どもたちに夢を与えられる教員になります。



第69回全国高等学校定時制通信制

教頭・副校長協会教育研究協議会岩手大会参加報告

北海道苫小牧工業高等学校 教頭 南川亮一

平成30年度第69回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会教育研究協議会岩手大会が平成30年7月26日(木)27日(金)の2日間の日程で、岩手県盛岡市のホテル東日本盛岡で開催されました。定時制通信制に関する諸課題について研究協議を行い、社会の急激の変化と多様化した生徒の実態や学習ニーズに応える魅力と活力溢れる定時制通信制教育の発展と充実に資する。という目的の下、全体テーマとして「教育新時代に対応した定通教育の創造～新学習指導要領の基本方針と方向性を踏まえて～」という内容で全国各地から代表が集まり、有意義な研究協議と情報交換が行われました。

大会1日目は、午前中に行われた全国理事会・総会に続き、文部科学省初等中等教育局視学官長尾篤志様や厚生労働省人材開発統括官付若年者・キャリア形成支援担当参事官室付キャリア形成支援室長補佐日高幸哉様の挨拶をはじめとした開会式が行われ、記念講演では一般社団法人岩手県社会福祉士会会長の坂口繁治様の「生徒の抱えるニーズと支援」～スクールソーシャルワークの視点～において日々の業務において対象者達に寄り添って問題を解決していく難しさややりがいについて深く掘り下げ、かつわかりやすく説明をしていただけたので大変勉強になりました。

その後の研究協議におきましては第4分科会 教育制度・単位制において「特色ある学校づくりの取組と課題」としまして、発表をさせていただきました。私のつたない発表にも関わらず、本校の生徒募集活動に共感いただいたり、参考にしていただいたり、カリキュラムに関することについてもそれぞれの学校の状況や参考になる情報を提供してくださったりと大変充実したひとときを体験させていただくことができました。私自身今回のように他府県の教頭・副校長先生方と関わる機会がはじめてでしたので、もちろんコミュニケーションを図る上でも大きく影響を受けましたが、生徒の人格を形成するためには何が必要で何をし

なければならないかを常に考えながら業務に携わることはどこも同じなのだと大変心強く感じたのを覚えています。

2日目も午前中研究協議が行われましたが、豪雨で被災されたにもかかわらず、某高校の教頭先生が非常にバイタリティをもって自身の学校の現状や課題を発表されている姿に感銘を受けたのを覚えています。

全体を通して教育課程(第1部会)、生徒指導(第2部会)、管理運営(第3部会)、教育制度・単位制(第4部会)、通信教育(第5部会)と5つの分科会が行われていましたが、どの分科会のテーマも興味深く自ら積極的に参加したいという思いでおりました。

今回はたまたま北海道の代表として参加させていただきましたが、この2日間で定時制、通信制高校における情報交換をはじめ都道府県の特徴や岩手県の文化など非常に多くのものと出会うことができました。

この経験をもとに現在本校が抱えている課題に積極的に取り組んでいくことができることと思っております。

最後に本大会の運営に早期から着手され充実した教育研究会としていただいた全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会東北支部ならびに岩手県高等学校定時制通信制教育協会副校長部会の皆様に感謝の意を述べさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。



**第62回北海道高等学校定時制通信制生徒
生活体験発表大会報告
北海道札幌南高等学校 教頭 円山 健一**

第62回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は平成30年10月10日（水）に札幌市教育文化会館において開催されました。関係各位の多大なるご指導とご協力をいただき、無事終えることができました。大会運営の当番校として心から感謝申し上げます。

今年度は、全道9支部の定時制高等学校の代表者10名と通信制高等学校の代表者1名、そして、当番校枠として北海道札幌南高等学校より1名の計12名の代表が集い、それぞれの貴重な体験が発表されました。様々な困難を乗り越えて懸命に生きていく力強さ、将来の夢の実現に向かって地道に努力するひたむきさ、家族や友達、先生への感謝の思いなど、すべての発表に前向きに生きていこうとする強い意志が表れていました。参観していた生徒の皆さんはもとより、ご来賓をはじめ多くのご来場の皆様にも大きな感動を与える素晴らしい内容の発表ばかりでした。

生活体験発表と閉会式までの間に行われたアトラクションは、北海道札幌南高等学校全日制の合唱部の歌声をお聴きいただきました。顧問の先生をはじめ部員の皆様にも大変お世話になりました。本大会に出場した生徒やご参加いただいた方々にも十分楽しんでいただけたものと思っております。

審査は全国大会の審査基準に準じ、審査委員長である北海道札幌東高等学校長 河原範毅様をはじめ5名の審査員により発表内容、発表方法について慎重に審査していただきました。北海道代表として選ばれた北海道東藻琴高等学校及び北海道有朋高等学校の2名の生徒は、自信と誇りを持って全国大会に臨み、その力を存分に発揮してくれたものと思います。

本大会の詳細な内容につきましては、平成31年1月末に発行予定の「輝く青春」第52集に掲載し、全道の定時制・通信制の学校にお届けしますので是非ご覧いただき、定時制・通信制に通いながら夢の実現を目指す生徒達の思いを感じ取っていただければ幸いです。

終わりになりますが、会場の札幌市教育文化会館の皆様をはじめ、全道の定通教育に携わっているすべての方々、ご協力をいただきました関係各位にこの場をお借りして感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



第62回 北海道高等学校定時制通信制生徒 生活体験発表大会 2018.10.10 札幌市教育文化会館

支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

道南支部長

北海道函館中部高等学校教頭 成田 豪

1 道南支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会道南支部は、北海道函館中部高等学校・北海道函館工業高等学校・北海道函館商業高等学校の3校により運営されている。毎年6月に定体連大会、8月に函館地区高等学校定時制三校合同講演会、9月に渡島地区生活体験発表大会、11月に渡島地区高等学校定時制教育研究会総会並びに研究協議会が実施されている。

2 函館地区高等学校定時制三校合同講演会

【8月27日(月)】

本合同講演会は函館市芸術ホールを会場として行われた。講師に、社会福祉法人はばたき福祉事業団北海道支部の専門家相談員坂本玲子氏を招き、「性感染症とエイズそして、セクシャリティーについて」と題して開催した。講演では、札幌市におけるHIV/AIDSに関わる相談活動の実際や、性感染症の動向や、函館市における性感染症の現状が紹介され、人間の性に対する科学的な理解の必要性、男女間の人格の相互尊重、適切な行動をとる上での注意点などが生徒へ伝えられた。

3 生活体験発表大会【9月7日(金)】

本大会は函館市芸術ホールを会場として行われた。各学校の校内選考を勝ち抜いた函館中部高等学校代表3名、函館工業高等学校代表1名、函館商業高等学校代表1名の計5名による発表が行われ、僅差で函館中部高等学校の4年宮川裕里加さんの「諦めた夢をもう一度追いかけるために」が最優秀賞となり、全道大会への出場を果たした。

4 渡島地区高等学校定時制教育研究会

【11月20日(火)】

本研究会は函館工業高等学校を会場に実施された。総会では平成29年度事業報告・会計決算報告・監査報告の他、平成30年度事業計画案・予算案、平成31年度以降の研究会についての審議が行われた。

その後の研究協議会においては、北海道本別高等学校教諭平口莉菜氏による講演「通級による指導について」をもとに、通級による指導の実際についての協議が行われた。講演では、本別高校における通級指導における生徒の自立活動を支援するための方策について、指導の流れ、保護者への対応などが具体的に紹介された。協議では、各校それぞれが抱える現状の説明、指導面での疑問や不安など活発な意見が交わされ、有意義な研

究会となった。

5 3校合同生徒募集ポスターの作成

定時制への入学生減少という現状への対策と、定時制教育への理解促進と普及を目的に、市内3校の定時制により合同の生徒募集ポスターを制作した。制作にあたっては、定時制教育の魅力を視覚的に表現すべく、各校の教頭がそれぞれアイデアを持ち寄り、完成へ至った。本ポスターは、函館市内中学校、JRやハローワークなどの公共の施設へ掲示依頼を行った。



支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

オホーツク支部長

北海道遠軽高等学校 教頭 永谷 哲治

(1) オホーツク支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会オホーツク支部は、夜間の網走南ヶ丘高校・北見北斗高校・遠軽高校と昼間の東藻琴高校の4校で構成されている。今年度も「定通体連支部大会」、「管内生活体験発表大会」が開催された。

また、「オホーツク管内高等学校定時制教育研究協議会総会・研究大会」が『生徒・地域の実態を踏まえ生き生きとした魅力ある学校づくりを推進するにはどう取り組むか』を研究主題として開催された。

(2) 定通体連オホーツク支部大会

定通体連オホーツク支部大会は5月27日(日)に網走南ヶ丘高校を当番校として網走市総合体育館で全道大会の出場権をかけて各種競技が行われた。結果は次のとおりである。

【バスケットボール】

男子 優勝 東藻琴高等学校 ※出場1校のみ

【バドミントン】

団体男子 優勝 北見北斗高等学校
準優勝 網走南ヶ丘高等学校
団体女子 優勝 東藻琴高等学校 ※出場1校のみ
個人男子 優勝 川崎 和志(網走南ヶ丘)
準優勝 尾張 冬弥(北見北斗)
3位 波多野拓哉(網走南ヶ丘)
個人女子 優勝 橘 美咲(東藻琴)
準優勝 後藤 麻衣(東藻琴)
3位 新宮 茉桜(東藻琴)

【卓球】

団体男子 優勝 東藻琴高等学校
準優勝 遠軽高等学校
団体女子 優勝 東藻琴高等学校
個人男子 優勝 東海林優哉(網走南ヶ丘)
準優勝 遠藤 駿太(東藻琴)
3位 兵頭 諒哉(遠軽)
4位 瀬尾 航(東藻琴)
個人女子 優勝 田中あゆみ(東藻琴)
準優勝 栄 和子(遠軽)
3位 布藤 和花(東藻琴)
4位 上杉 舞(東藻琴)

全道大会へは各種目団体1チーム、個人はバドミントン上位3名、卓球は上位4名が出場した。また、全道大会を勝ち抜け、東京の駒沢体育館で行われた定通体連全国大会に、卓球女子団体で東藻琴高校、卓球男

子個人で遠藤君(東藻琴)、卓球女子個人で栄さん(遠軽)が北海道代表として出場した。

(3) 定時制通信制生徒生活体験発表大会

オホーツク管内定時制通信制生徒生活体験発表大会は9月1日(土)に東藻琴高校を当番校として東藻琴高校体育館を会場にそれぞれの学校での予選を勝ち抜いた4校10名の生徒が出場し自らの学校や社会での体験を熱く語った。結果は次のとおりである。

優勝 布藤 和花(東藻琴高校 3年)

準優勝 中西 拓海(遠軽高校 1年)

3位 大久保奈槻(東藻琴高校 2年)

優勝した布藤さんは、北海道大会で最優秀賞を受賞(併せて知事賞、北海道新聞社賞、NHK札幌放送局賞を受賞)し、11月24日(土)に東京六本木ヒルズで開催された全国大会では北海道代表として出場して文部科学省初等中等教育局長賞を受賞した。

(4) オホーツク管内高等学校定時制教育研究協議会総会・研究大会

今年度は、遠軽高校が事務局校となり9月11日に遠軽高校を会場に開催された。総会では平成29年度事業報告、会計決算報告及び監査報告、及び平成30年度事業計画案、会計予算案等について審議されそれぞれが承認された。

また、東藻琴高校と女満別高校の統合により、東藻琴高校の2023年度からの脱会が考えられることを契機に、今後の本会の在り方や当番校のローテーションについて考えていくことが確認された。

総会に続き研究協議会では、生活指導で「生徒一人ひとりの存在感や自己実現の喜びを体験させるための指導法はどうか」を小主題として北見北斗高校の齋藤教諭が、変化の激しい社会において、将来、自立し共生できる人材育成として取り組んでいる「北見北斗高校定時制で身につける力16」についての研究発表を、学習指導では「自ら学ぶ意欲を育て、学ぶことの楽しさや充実感を体感させるための指導法はどうか」を小主題として東藻琴高校の小美濃教諭が「存在感や自己実現の喜びを体感させるための取組」についての研究発表を行った。

続いて、オホーツク教育局高等学校教育指導班工藤淳主査より「新学習指導要領と授業改善」について講演、給食試食、授業見学が行われ、各校の現状と課題や教育活動の取組状況について情報交換がされ有意義な時間となった。

支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

胆振支部長

北海道苫小牧東高等学校 教頭 井畑 定順

1 胆振支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会胆振支部は、現在、夜間定時制課程の室蘭栄高校・苫小牧工業高校・苫小牧東高校の3校で構成されており、生徒数の減少という各校共通の課題を抱えながらも特色ある教育活動を展開している。

2 支部事業

(1) 定通体連胆振支部大会

今年度の支部大会は5月26日に開催されたが、各校ともに在籍数の減少だけでなく、部活動の加入率の低下によって、活動事態がない部活動が多くなり団体種目の大会を開催するにはいたらなかった。しかし、バドミントンと卓球でそれぞれ個人戦を実施し、全道大会へ選手を送り出すことができた。

全道大会では、バドミントン男子個人の部において、室蘭栄高校の渡辺君が1年生ながら順調に勝ち上がり、3回戦では前年度入賞者を破り見事ベスト4に入る活躍を見せた。今後の活躍が期待される選手である。他の種目では、なかなか勝ち進むことはできなかったが、全道大会出場という経験は今後の成長の糧になるであろう。各種目の当番校及び結果は次のとおり。

【卓球】(苫小牧東高校)

○男子個人 優勝 荒 祥維 (室栄)
準優勝 大畑 滉太 (室栄)
第3位 山田 祐也 (苫工)
第3位 吉田 功 (苫工)

【バドミントン】(苫小牧工業高校)

○男子個人 優勝 渡辺 仁哉 (室栄)
準優勝 鈴木 健太 (苫工)
第3位 吉田 匠輝 (苫工)
第3位 伊藤 涼平 (苫工)
○女子個人 優勝 山口 茉以 (室栄)
準優勝 松倉 菜美 (室栄)
第3位 土屋 聖花 (室栄)

(2) 胆振支部生活体験発表大会

9月14日に室蘭栄高校体育館を会場に、各校より選ばれた6名が、学校生活を通じて感じ学んだことを発表した。最優秀賞には苫小牧工業高校の青木さんが選ばれた。青木さんは「感謝」と題し、高校入学を機にそ

れまでの生活を一変させて取り組むことにより、母との関係も改善したことや高校生活を続けられたのは、母や先生、仲間たちの支えがあったからと感謝の気持ちを述べた。最後には、同じく定時制に通う仲間に対して、必ず成果は形として報われると力強いエールを送っていた。地元新聞社の取材に際し、苫小牧工業高校に入学して本当に良かったと満面の笑みを見せていた。結果は次のとおり。

【最優秀賞】

「感謝」 青木 綾香 (苫工)

【優秀賞】

「老いても青春」 西本美恵子 (室栄)

「四年目にして思うこと」 山口 茉以 (室栄)

3 各校の教育活動

(1) 室蘭栄高校

今年度創立70年の節目を迎え、平成29年度入学生から三修制を実施するなど、生徒の実態に即した教育活動の工夫を行っている。学習面での具体的な取組としては、基礎的基本的な学力の充実を図るために、1学年における授業のサポート体制を整備している。また、生徒が抱える問題の早期発見と解決に向けた取組では、年4回の個人面談に加え養護教諭やSCによる面談を実施している。さらに学校行事においては、生徒の自主性を育てることをテーマに、新入生歓迎会、校内体育大会、栄定祭(学校祭)、卒業生を送る会の企画・運営を生徒会執行部を中心に組み立てている。

(2) 苫小牧工業高校

今年度で創立95年を迎え、工業都市苫小牧の発展とともに工業技術者の育成に努めてきた。現在では勤労学生に加え、学習環境を変えて学ぼうとする生徒が多く入学するようになり、ふれあう喜びと学ぶ喜びを育む地域に根ざした定時制教育を推進するため、次の5点を教育活動方針としている。

①中途退学者を出さないための個に応じたきめ細かな指導の推進。②基礎学力の定着を図り自ら学ぶ態度を養う学習指導の推進。③働きながら学ぶ生活習慣の確立と自律ある生活を過ごせる生徒指導の推進。④低学年からの進路指導の充実。⑤生徒のふれあいを大切にした特別活動の推進。

(3) 苫小牧東高校

開校以来幅広い地域の要望に応えるとともに、北海道有朋高等学校の協力校や苫小牧高等商業学校の技能連携校として、地域社会と連携し相互理解を深めて教育活動を推進し現在に至っている。生徒の半数以上が不登校を経験しており、コミュニケーション能力に不安を持って入学してくることから、人間関係形成・社会形成能力を育成するために、外部機関と連携・協力したキャリア教育や、自己肯定感・自己有用感の向上のために教育相談の充実を図り、生徒の心情に丁寧に寄り添いながら指導を重ねている。また、数学・英語での少人数指導や基礎科目を増単することにより「学び直し」にも対応したカリキュラムを編成している。



第50回北海道高等学校給食研究協議会

北海道大会報告

北海道札幌北高等学校 教頭 斉藤 智英

平成30年7月25日(水)に第50回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会が札幌北高校を会場にして開催され、全道から多くの給食担当者が参加した。

1 理事総会・研究協議会

(1) 報告事項

ア 平成30年度活動計画及び中間報告

イ 平成35年度までの各種輪番等の確認

(2) 協議事項 全国高等学校給食研究協議会からの退会について

(3) その他 給食研の活動について(意見交換)

2 第50回北海道大会

(1) 講演

講師 光塩学園女子短期大学食物栄養科

准教授 布川 育子 氏

演題 「給食で心にも身体にも栄養を！」

要旨 高校生というライフステージの特徴や課題から考えられる学校給食の役割について、及び、魅力的な給食を作るために必要な献立の考え方および衛生管理について

1. 学校給食の役割について

①夜間定時制高校の給食の現状

②近年、給食に期待されていることと課題

2. 魅力的な給食となるために

①魅力的な給食とは?そのために必要なこと

②献立、盛付け、食育、環境づくり

③衛生管理・衛生管理の対象(人、物、場所)

3. まとめ 『給食で心も身体もええように』

(2) 研究発表

発表 北海道小樽未来創造高等学校

教頭 木村 成一 氏

テーマ 「学校直営調理から民間委託へ」

要旨 民間委託になった経緯と現状の説明、及び、今後の課題について発表があった。調理面では、現在まで特に大きな課題といったものは見られない。予算面でもクリアできている。長期的には、食材の高騰や消費税が増税された場合等による給食費の値上げがある。また、事務的な面では、誰が担当になっても計算できるようなシステム作りが急務である。

高等学校定時制通信制体育大会報告
北海道高等学校定時制通信制体育連盟事務局長
市立札幌大通高等学校教頭 池田 吉利

平成30年度の事業につきましては、関係各位のご尽力により、すべて滞りなく終えることができました。各支部事務局校、当番校、専門委員におかれましては、春の支部大会に始まり北海道大会、秋季新人戦まで円滑に運営していただき、改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度の北海道大会及び全国大会の成績につきましては、事務局（市立札幌大通高等学校）のWebサイト（<http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/teitairen/>）に掲載しております。是非ご覧いただきたいと思っております。今年度も北海道チームの活躍は目覚ましく、女子陸上走り高跳で札幌大通高校の鎌田選手が準優勝（昨年まで2年連続優勝）、男子バドミントン団体で札幌月寒高校が昨年に続き準優勝（2年連続）。男子バドミントン個人でも札幌北高校の中村選手が第3位、バスケットボールでは大通高校が男女ともベスト8など、特筆すべき結果を残しております。定時制通信制という恵まれない環境のもと、日々努力を重ね精進した選手、そして指導に当たられた顧問の皆さまに、心より敬意を表します。

道内では生徒数が減少し、それに伴う教員数の減少で大会の運営が困難な状況もありますが、ご理解・ご協力をお願いする次第であります。また、定時制通信制の大会では記録や勝敗だけにこだわらず、スポーツを愛する心や目標に向かって挑戦すること、お互いの健闘をたたかい認め合う、交流して友情の輪を広げることが大切になっています。この理念のもと、健全な青少年育成を目指し、引き続き各校での部活動へのご指導ご協力をお願い申し上げます。

退職挨拶

北海道札幌北高等学校 教頭 斉藤 智英

昭和57年室工高定時制に新卒として赴任して以来、通算9年間定通教育に関わりました。この間、様々な課題を抱えながら懸命に頑張っている生徒の姿に接することは、大変かけがえのない経験でした。現在も定時制には困難な状況を克服するため学んでいる多くの生徒がおり、それを成長させられるのは、定時制の先生方の細かな配慮と情熱的な指導です。

最後に、37年間の教員生活の中で出会った多くの方々から感謝申し上げ、今後ますますの定通教育の発展を願い、退職の挨拶といたします。

平成30年度北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制会調査研究報告

特別な教育的支援を必要とする生徒への手立てについて

定時制通信制部会調査研究部

調査研究部長 三橋孝臣（北海道札幌西高等学校）

調査研究部員 佐藤恵一（北海道札幌月寒高等学校）

調査研究部員 長谷哲生（北海道札幌琴似工業高等学校）

調査研究委員 渋谷 圭（北海道江別高等学校）

1 はじめに

我が国の定時制・通信制課程は昭和23年に発足し、70年以上の歴史がある。現在では当初の「勤労青年のための教育機関」としての役割だけではなく、多様な学びのニーズへの受け皿としての役割を増しており、学び直しの機会提供や、困難を抱える生徒の自立支援等の面で大きく期待されている。とりわけ北海道内の高等学校各校において特別な教育的配慮が必要である事例は増加している。

そこで、特別な教育的配慮を必要とする生徒が進級、卒業するまで、様々な事例についてどのように対応しているか、今後どのように対応することが有効であるかを明らかにしたいと考え、調査・研究に取り組んだ。

2 アンケート調査の概要

調査は、質問紙によるアンケート（選択方式及び記述方式）によって実施した。

対象は、北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会に加盟する全43校（44課程）とし、調査期間は平成30年10月17日（水）～同年11月7日（水）とした。全43校（44課程）から回答が得られ、回収率は100%であった。

このアンケート結果を基に調査研究部会で検討し、調査研究報告とする。

3 アンケートの質問内容

質問

1 学校の状況

1-1 課程

1-2 学科

1-3 全校生徒数【人数入力】

1-4 在籍生徒の年齢構成【人数入力】

1-5 就労状況【人数入力】

1-6 前在籍校で不登校経験のある生徒数【人数入力】

1-7 日本語支援の必要な外国籍（と思われる含む）生徒数【人数入力】

1-8 障がい理由とした個別支援の必要な生徒数【人数入力】

1-9 障害者手帳を所持する生徒数【人数入力】

1-10 特別な教育的支援が必要な生徒数【人数入力】

1-11 特別な教育的支援が必要な生徒への対応【複数回答可】

1-12 特別な支援が必要な生徒への対応のための教員研修【複数回答可】

2-1 教科で単位取得に必要な出席率【数値入力】

2-2 怪我や病気等による長期欠席への配慮

2-3 2-2で「配慮している」場合、単位を修得するために必要な出席率【数値入力 %】

2-4 2-2で「配慮している」場合、欠席が大幅超過した際どのように補充していますか。

2-5 遅刻等の規定で、授業で「出席」とみなされる時間【数値入力】

2-6 遅刻等の規定で、特別な条項の有無（遅刻3回で1回の欠席とみなして指導する等）

2-7 いわゆる「別室登校」（保健室等）について

2-8 昨年度、欠課超過等で履修が不認可となった生徒数【数値入力】

3-1 昨年度、修得不認可となった生徒数【数値入力】

3-2 3-1のうち、学習に何らかの障がいのある生徒数【数値入力】

3-3 学習に何らかの障がいのある生徒に配慮する校内規程【記述】

3-4 3-3で「ない」場合、内規がないが何らかの形で配慮している具体的内容【記述】

3-5 学習に何らかの障がいのある生徒の教科の成績評価に、個別の指導計画や支援計画をもとにした個別の達成度について

3-6 学習に何らかの障がいのある生徒に対応する部署【複数選択可】

4-1 教育委員会の支援事業（パートナー・ティーチャー派遣や学校サポーター派遣事業等）の活用【a 記述】

4-2 市町村の支援事業の活用【a 記述】

4-3 大学等と連携した支援事業の実施【a 記述】

4-4 学校独自で地域や関係機関と連携した事業の実施【a 記述】

4-5 学習に何らかの障がいのある生徒に対して配慮のひとつとしてのICT等の利用【a 記述】

4-6 学習に何らかの障がいのある生徒に対して、就労支援や進路先開拓の実施【a 記述】

4 考察

1-1 課程	
課程	高校数
a 定時制	39
b 通信制	5
計	44

公立は41校（42課程）、
私立は2校である。

1-2 学科	
学科形態等	高校数
a 普通科	29
b 専門学科	13
c 二学科以上併置	2
計	44

二学科以上を併置する高等学校は
有朋高等学校のみである。

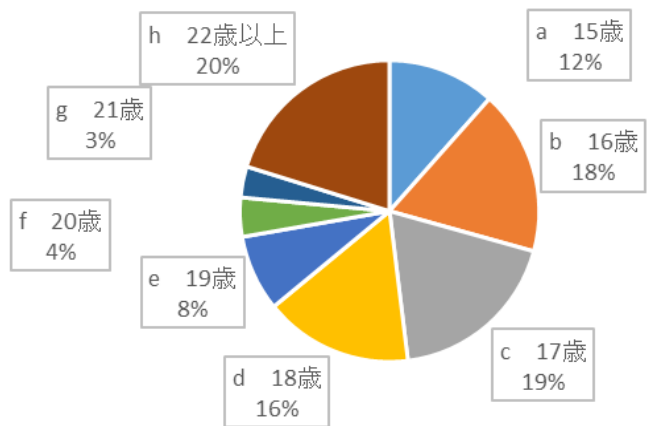
1-3 全校生徒数

高校名	生徒数	高校名	生徒数	高校名	生徒数	高校名	生徒数	高校名	生徒数
札幌東	97	江別	35	樽潮陵	20	旭川北	49	東藻琴	45
札幌西	38	千歳	59	樽未来	31	旭川工	64	釧湖陵	83
札幌南	101	恵庭南	39	ニセコ	80	旭川商	41	釧路工	52
札幌北	148	札大通	1131	真狩	98	稚内	38	帯柏葉	43
札幌月寒	85	星槎国		留寿都	57	士別東	19	日高	33
札幌校	125	とわ三	93	岩東	25	幌加内	48	室蘭栄	63
琴似工	104	函中部	74	滝川	25	北北斗	32	苫東	50
有朋通	2854	函館工	42	天売	8	網南丘	24	苫工	72
有朋単	244	函館商	38	旭川東	36	遠軽	25	計	6468

アンケート調査は10月17日～11月7日に実施しているため、年度当初の生徒数と整合しない。また、星槎国際高等学校は未回答となっている。

1000人を超える大規模校は有朋高校（通信制）と札幌大通高校の2校のみであるが、この2校で全体の在籍生徒数の約62%を占めている。

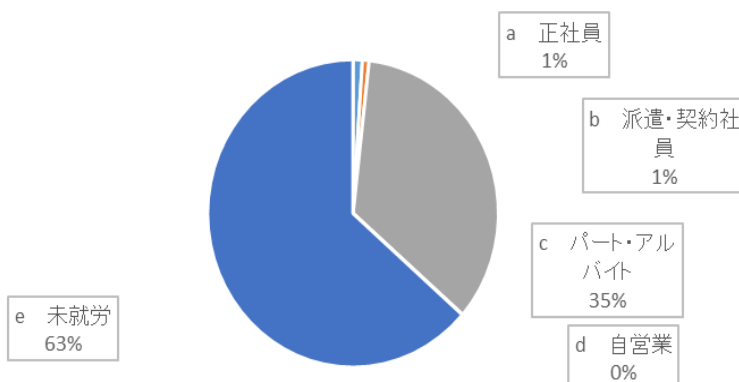
1-4 在籍生徒の年齢構成



年齢構成の特徴として、22歳以上の生徒の割合が最も多くなっていることがあげられる。

何らかの理由から、学び直しの場合として現在の学校に通っている、または就労しながら通信制課程等に在籍していると考えられる。

1-5 就労状況



就労状況については、通信制課程など、把握の困難な学校を除き、分母は3615名である。

何らかの形で就労している生徒は1318名、未就労は2297名である。昼間定時や午前部・午後部を持つ学校を含めると正社員、派遣・契約社員が2%となり、「勤労青年のための教育機関」からニーズが変化していることが伺える。

1-6 前在籍校で不登校経験のある生徒数

回答が得られなかった学校の生徒数を除くと 3566 名が分母となる。このうち 1588 名、約 45% の生徒に不登校経験がある。1-5 と同様に定時制・通信制課程が担っている役割が変化していることを裏付けている。

1-7 日本語支援の必要な外国籍（と思われる含む）生徒

高校名	人数
江 別	1
札大通	16
函館工	1
函館商	1
稚 内	1
計	20

文科省の平成 28 年度の同調査を参考にすると、北海道の高等学校（全日制も含む）全体で、日本語の必要な外国籍（と思われる含む）生徒数は 18 名であった。神奈川県 552 名、東京都 526 名、大阪府 274 名、愛知県 242 名、静岡県 228 名、三重県 221 名、埼玉県 175 名、千葉県 160 名、岐阜県 103 名等、北海道は他府県と比較すると、対象となる生徒は少ない。

今回のアンケート調査では、定時制・通信制課程だけでも、平成 28 年度の北海道の高等学校全体の対象者よりも多く、増加傾向にあることが分かる。

1-8 障がいや理由とした個別支援の必要な生徒数

アンケートでは全体で 48 名である。医師や専門家の診断を受けた、あるいは小学校、中学校からの引き継ぎで継続した個別指導をしていると考えられる。48 名に含まれない、個別支援を実施せず全体指導で対応している場合や本人及び保護者が個別支援を望まない場合もある。

1-9 障害者手帳を所有する生徒の認知

この項目についてもグラフや表で示すことは控えるが、「把握している」という学校が 34 校、「把握していない」という学校が 10 校であった。また、全体での認知数は 65 名という結果であった。この認知数についても、実際には 1-8 と同様に潜在数はもっと多いと推測できる。

1-10 特別な教育的支援が必要な生徒数

全体の数は 193 名であった。1-8 と同様、本人及び保護者が個別支援を望まない場合があり、当該生徒が困難さを解消できるよう、慎重に対応する必要がある。

1-11 特別な教育的支援が必要な生徒への対応

a 個別の教育支援計画を策定・実施	19
b 個別指導を実施	22
c スクールカウンセラー（SC）の配置	22
d スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置	6
e 外部の専門機関・専門家（医療関連）と連携	16
f 外部の専門機関・専門家（福祉関連）と連携	16
g 特別支援学校教諭免許状を有する教員が在籍	8
h 特別支援学校との連携	18
I 上記以外の取組	5
j 特に対応していない	6

I の取組例

- ・ 生徒の学びへの興味に対して、様々な授業（ゼミ形式の選択科目）を多く設定し登校意欲の継続を図っている。（星槎国際高校）
- ・ 月 1 回の学年分掌連絡会で生徒に関する情報を共有している。生徒の困り感を共有し、対応の方向性を打ち出し、取り組んでいる。（士別東高校）

- ・ 特別支援教育支援員を配置している。(釧路湖陵高校)
- ・ 現在、車椅子登校の生徒が介護支援員の支援を受けている。(日高高校)

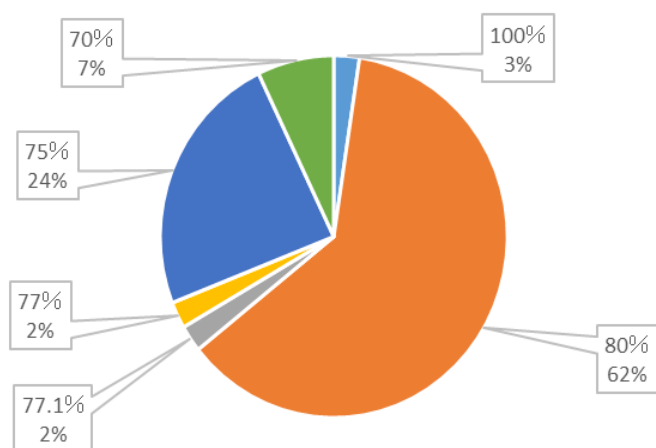
1-12 特別な支援が必要な生徒への対応のための教員研修を実施している

a	各教科の指導に関すること	19
b	各教科の指導に関すること（面接指導）	6
c	各教科の指導に関すること（添削指導）	4
d	進学・就職指導に関すること	12
e	履修指導に関すること	4
f	生徒へのカウンセリングに関すること	17
g	生徒指導に関すること	20
h	特別支援教育に関すること	25
i	外国語、外国の文化風習に関すること	2
j	上記以外の研修	3

上記 j の研修

- ・ 保健支援的職員研修。(札幌大通高校)
- ・ 個別の指導計画に関する研修。(釧路湖陵高校)
- ・ 車椅子の生徒に対応するため、全教職員が共通認識を持つ研修を行っている。(日高高校)

2-1 教科で単位修得に必要な出席率は何%か



全体で最も多かったのは 80%であり、全体の 6 割を占めている。100%は通信制のスクーリングである。

2-2 怪我や病気等による長期欠席への配慮

「配慮している」学校が 38 校・86%、「配慮していない」学校は 6 校・14%であった。

2-3 2-2 で「配慮している場合」、単位を修得するために必要な出席率は何%か。

出席率	高校数
70%	20
68.6%	1
66.7%	1
66%	2
65%	2
63%	1
60%	4
50%	7
個別判断	1
該当高校数	39

70%が全体の半数の 20 校であった。個別判断は 1 校となっているが、70%を超過した場合に改めて個別判断をするという学校も複数校確認している。個別のケースに柔軟・慎重に対応している学校は多いと推測できる。

2-4 2-2で「配慮している場合」、欠席が大幅超過した際に、どのように補充していますか。

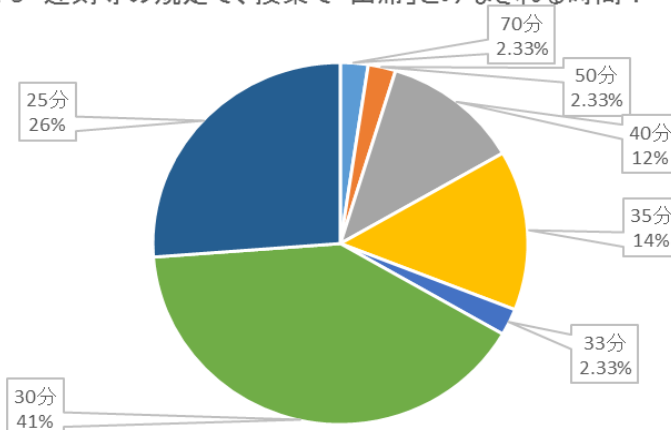
項目	高校数
a 時期を前倒して補充	19
b 課題で時数を補填	21
c 上記以外の取組	4

「時期を前倒して補充」や「課題等で時数を補填」が一般的である。それ以外の取組をしている4校の方法については今後の調査課題とする。

2-5 遅刻等の規定で、授業で「出席」とみなされる時間は何分以上か。

時間	高校数
70分	1
50分	1
40分	5
35分	6
33分	1
30分	17
25分	11
回答数	42

2-5 遅刻等の規定で、授業で「出席」とみなされる時間？



有朋高校の単位制で90分の授業70分以上としている。有朋高校の制は、スクーリング時50分の授業のうち50分となっている。

で
通信
時間

2-6 遅刻等の規定で、特別な条項の有無（遅刻3回で1回の欠席とみなして指導する等）

2-6 遅刻等の規定で、特別な条項の有無

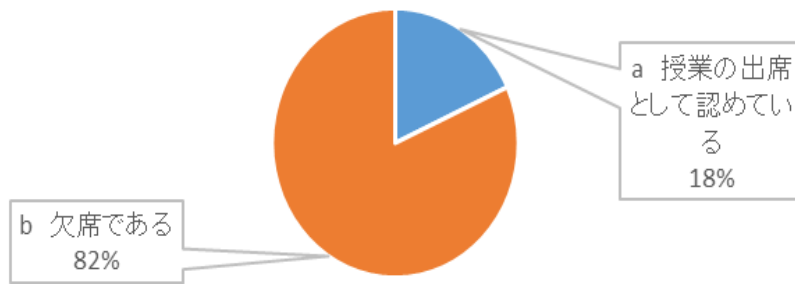


特別な条項を設けて指導することでは「ある」と「ない」が同数であった。授業の遅刻・中抜けや早退は授業での内容理解の妨げとなることから、指導の手法として一般的であったが、公平さにおいて不安定であることから、廃止される傾向にある。集団指導と個別の課題解決支援等様々な視点から検討、議論が必要である。

a 「ある」の具体的な内容

- ・遅刻、早退及び中抜けをした場合は欠課とみなして指導する。1校
- ・遅刻（中抜け・早退）が3回で1回の欠課とみなして指導する。13校
- ・遅刻（中抜け・早退）が4回で1回の欠課とみなして指導する。2校
- ・遅刻（中抜け・早退）が5回で1回の欠課とみなして指導する。1校
- ・10分未満の場合は5回で1時間の欠課とみなして指導する。1校
- ・出席していなかった時間の累計が45分で1時間の欠課とみなして指導する。2校
- ・その他2校が未記入等。

2-7 いわゆる「別室登校」(保健室等)について



「別室登校」を授業の出席として認めている学校は全体の18%だが、2-2～2-4のとおり、生徒が怪我や病気をした際に特別な配慮を柔軟に行っている学校も多い。

2-8 昨年度、欠課超過等で履修が不認可となった生徒がいる学校

昨年度、欠課超過等で履修が不認可となった生徒数は全体で635名+ α であった。学年制であることの多い定時制課程で不認可となった生徒はいるものの、大半は単位制または通信制の生徒である。 α の部分は有朋高校の単位制である。その数が膨大なため把握が困難である。

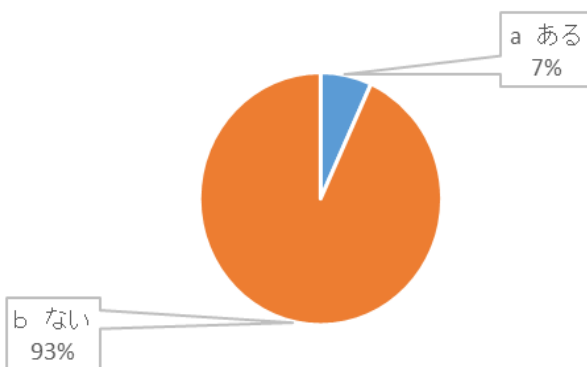
3-1 昨年度、修得不認可となった生徒数

昨年度、修得不認可となった生徒数は全体で33名である。教職員のきめ細かな指導と、根気強い指導の賜と言えるのではないだろうか。

3-2 3-1のうち、学習に何らかの障がいのある生徒数

上記33名のうちで、学習に何らかの障がいのある生徒は1名であった。

3-3 学習に何らかの障がいのある生徒に配慮する校内規定



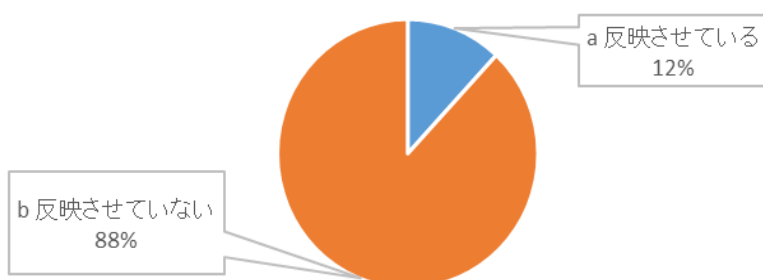
規定を設けている学校はごくわずかである。
規定を設けている学校は次のとおりである。

- ・学習支援委員会で対応について協議する。(札幌月寒高校)
- ・「特別教育支援を受ける生徒」は就学意欲はあるが、精神的または肉体的な病によって登校が困難であり、かつ、医師やスクールカウンセラー等の専門家のアドバイスを必要とするもの。／特別教育支援を受ける生徒」の単位は、次の1項または2項のどちらかの条件を満たすことで認定を受ける。
 - 1 学校への登校日数が全体の2/3以上であること。教室で授業を受けることができない場合、各教科や特別活動の課題を十分にこなしていること。
 - 2 進級認定会議または卒業認定会議において修得単位が妥当であると認められた場合。(江別高校)
- ・修得を認定するため、補充授業・補充考査の実施の他、本人の状況に応じて課題の提出等も実施する。(帯広柏葉高校)

3-4 3-3 で「ない」場合、内規にないが何らかの形で配慮している具体的内容

- ・就学に対して何らかの困難さを感じている生徒が入学していることから、記述はないが全職員が支援教育カウンセラー講習を受講するなど、いろいろな場面で配慮できる意識を持っている。(星槎国際高校)
- ・障害のある生徒については特別支援委員会やPT・SVと協力し、授業中の配慮等について教職員で情報共有している。特に状態が悪い生徒については、内規の中に50%までの条項を作成しているが、活用したことはない。(旭川北高校)
- ・HR 担任からの要請を受け、『特別支援委員会』で審議。指導内容等の原案作成の後、職員会議で提案、審議、承認を受けた後、特別に配慮(特別支援)することとなる。(札幌琴似工業高校)
- ・特別支援委員会で検討し配慮が必要であればケガや病気と同じように対応している。(東藻琴高校)
- ・特別支援委員会からの提案を個別に検討。(恵庭南高校)
- ・担任を中心に学年団と教育相談・特別支援委員会が連携して対応している。(函館工業高校)
- ・生徒支援委員会で支援内容を検討し、個別の対応を行っている。(小樽潮陵高校)
- ・個々生徒の状況を教務部で判断し、補充や追試の配慮をすることがある。(札幌東高校)
- ・担任が中心となり、所属学科や教科担任と生徒情報を共有し、学習支援に努めている。(札幌工業高校)
- ・校内規定はないが、個別指導をするなど、実態に合わせて配慮している。(千歳高校)
- ・個別に補習などを行い、基礎的知識の定着に努めている。(日高高校)
- ・考査前後の個別指導。(旭川東高校)
- ・評価の工夫。(稚内高校)
- ・障害の状況によって協議。(網走南ヶ丘高校)
- ・校長裁量に任されている。(真狩高校)
- ・課題。(苫小牧工業高校)
- ・特にしていないが、補習等で対応。(ニセコ高校)
- ・特にないが、現在検討している最中である。(幌加内高校)
- ・特になし。新規定を作成中。(北見北斗高校)

3-5 学習に何らかの障がいのある生徒の教科の成績評価に、個別の指導計画や支援計画をもとにした個別の達成度について



反映させていると回答した学校は札幌北高校、留寿都高校、幌加内高校、東藻琴高校、星槎国際高校の5校、うち3校が実習を昼間定時制で、いずれも農業科である。実習やプロジェクト学習を多く取り入れていることが特徴である。

3-6 学習に何らかの障がいのある生徒に対応する部署

a 総務部	1
b 教務部	24
c 生徒指導部	11
d 進路指導部	1
e 保健管理等に類する部	4
f 教育相談部	1
i 委員会	33
j 対応する部署はない	1

委員会で対応している学校が多く、委員会単独と教務部や生徒指導部等の分掌と連携しながら活動していることが読み取れる。

4-1 教育委員会の支援事業（パートナー・ティーチャー派遣や学校サポーター派遣事業等）の活用

a ある	21
b ない	23



パートナー・ティーチャー派遣事業については地域による偏りなく、普及しつつある。

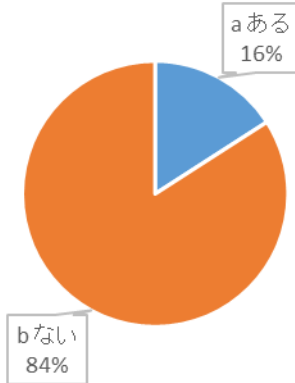
学校サポーター事業等は、大学生を登用する例が多いことから大学の所在する都市部地域を中心に少しずつ普及してきている。

高校生ステップアップ・プログラムも特別な教育的支援に関連する部分があることから、活用の広がりが見込まれる。

高校名	a ある → 具体的内容
札幌西	パートナーティーチャー派遣事業 学校サポーター派遣事業
札幌工	PT派遣事業による支援
江別	パートナーティーチャー派遣事業 学校サポーター派遣事業
千歳	校内研修会への出席 個別の支援計画のサポート 授業参観等による助言
札大通	学びのサポーター 介助アシスタント
函中部	P T の派遣
函館工	高校生ステップアップ・プログラム
樽潮陵	高等支援学校との連携（パートナー・ティーチャー派遣）
真狩	p・t派遣
旭川北	コーディネーターや担任等に対する教育相談 コーディネーターや担任等に対する情報提供
旭川工	パートナーティーチャー派遣事業
稚内	パートナーティーチャー事業の実施
北北斗	対象生徒の対応についての具体的な指導・助言
網南丘	学校サポーター派遣事業 特別支援スーパーバイザーの派遣
遠軽	教員との面談による指導・助言
東藻琴	パートナーティーチャー 教育相談員
釧湖陵	パートナーティーチャー派遣事業 学校サポーター派遣事業
帯柏葉	パートナーティーチャー派遣事業
室蘭栄	P T 派遣事業に係る助言・相談の活用
苫工	パートナー・ティーチャー スクールカウンセラー

4-2 市町村の支援事業の活用

a ある	7
b ない	37

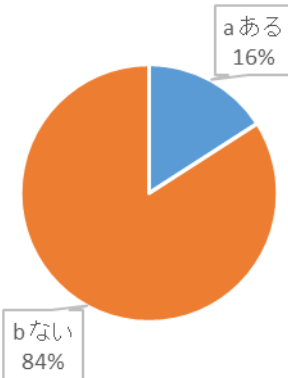


高校名	a ある →具体的内容
札幌北	おがるとの連携 アカシアとの連携
江 別	江別市就職支援事業
札大通	コミュニティスクール関係（母語支援等）
樽潮陵	進路相談等
真 狩	真狩村教育支援員会
士別東	学習支援員
東藻琴	教育相談員

特別な教育的支援に関する地域の教育力の活用も進められている。高校内部の情報にとどまらず、お互いに専門性のある書記官との情報交流を行うことで、教育力の向上をねらう。

4-3 大学と連携した支援事業の実施

a ある	7
b ない	37

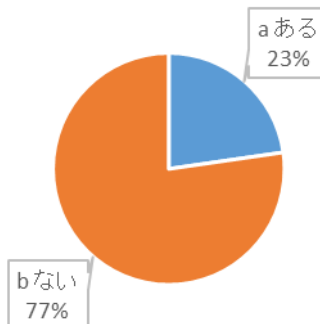


高校名	a ある →具体的内容
札幌西	北海道教育大札幌校の学習ボランティア事業を活用している。 札幌国際大学の教育実践演習活動を活用している。
札幌南	北海道教育大学札幌校の学生支援ボランティア
札幌北	北海道教育大学との連携（学生ボランティア） 北海道大学との連携（学生ボランティア）
札幌月寒	札幌大学との連携。 札幌国際大学の教育実践演習活動を活用している。
江 別	酪農学園大学との高大連携事業 千歳科学技術大学との高大連携事業
千 歳	千歳科学技術大学学生による学習ボランティア 千歳科学技術大学のeラーニング
函館商	学校サポーター
留寿都	北翔大学との福祉交流

大学と連携した支援事業の活用は生徒の学習指導に非常に有効な手段となる。多くの実践は、例えば教職志望者の実習的活動等、相互に利益をもたらす仕組みになっている。大学の所在地域に限定されることが残念であるが、IT の利用等の利用による範囲拡大も今後の課題であろう。

4-4 学校独自で地域や関係機関と連携した事業の実施

a ある	10
b ない	34

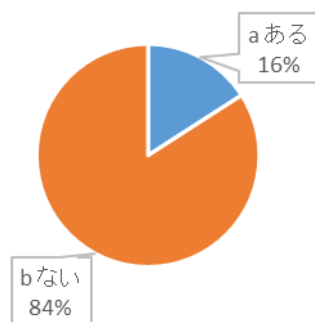


高校名	a ある →具体的内容
札幌北	札幌市若者支援センターとの連携
千 歳	授業公開週間 各講演会の実施 芸術鑑賞への外部支援者招待
樽潮陵	進路実現に向けた講義等
旭川北	就労支援施設との連携（旭川市障害者福祉センター）
旭川工	職安・サポステとの連携
稚 内	保健所との相談連携 社会福祉事務所との相談連携
士別東	あさひかわサポートステーション（キャリア支援）
網南丘	ボランティア関係 保健所関係
釧湖陵	学生ボランティアを募集
日 高	日高町教育委員会が主催している産業学習推進制度と連携を取り、学校外の学修を単位認定している。（産業学習課や地域の住民による授業など）

4-1～4-4の全てを活用している高校もあり、そのような学校はノウハウも持っている。各校の蓄積された実践のノウハウの情報交流を効果的に行うことが今後の課題である。

4-5 学習に何らかの障がいのある生徒に対して配慮の一つとしてのICTの利用

a ある	7
b ない	37



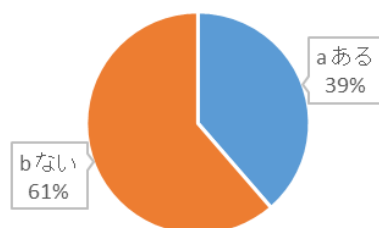
高校名	a ある → 具体的内容
札幌西	ICレコーダーの利用
札大通	定期考査時、PCによる解答可
	板書の写真撮影可
	授業の録音可
	ノイズキャンセラー使用可
星槎国	黒板 書字が苦手な生徒 メモとして携帯(スマホ)利用
旭川工	視聴覚教材の活用
幌加内	配慮しているわけではないが、生徒一人一人にiPadを貸与している。
東藻琴	デジタルカメラなどの映像記録機器
日高	車椅子で登校している生徒(手が自由に動かない)に対して、考査時間の延長や体育の授業において障がい者スポーツを導入している。

困り感のある生徒の申し出

が実際にはないと学校側で積極的に利用を進めるといふことにはならないかもしれない。また、利用の仕方によっては意味をなさないどころか遊び道具になってしまう危険性もあるため、慎重論も出てくるのは当然である。しかし、機器を利用することによって劇的に学習能率が上がり、救われる生徒も実際に存在する。積極的な認知を進め、個々のケースに合わせた上で教職員間の合意を図り、利用を進めてはどうか。

4-6 学習に何らかの障がいのある生徒に対して、就労支援や進路先開拓の実施

a ある	17
b ない	27



高校名	a ある → 具体的内容
札幌北	アカシアとの連携
千歳	個々の生徒の実態に合わせた企業開拓やインターンシップの実施。
札大通	多段包摂等
星槎国	就労B等にお世話になることがある
函中部	就労支援施設への仲介
函館商	職業安定所との連携
樽潮陵	ハローワーク小樽との連携
真狩	就労支援との連携
旭川東	ハローワーク 旭川市福祉保健部
旭川北	就労支援施設との連携(旭川市障害者福祉センター)
旭川工	職安・サポステとの連携
稚内	ハローワークとの相談連携 社会福祉事務所との相談連携
士別東	旭川市障がい者福祉センター「おびった」への相談
東藻琴	ハローワーク等活用
釧湖陵	教育局の進路相談員と連携した進路活動 地域若者サポートステーションと連携した進路活動
帯柏葉	民間の障害者就業支援団体との情報交換や連携の強化
苫工	進路先開拓の実施

最近は、就労支援施設から学校に対して積極的に働きかけてくる場合も有り、学習に何らかの障がいのある生徒に対しての就労支援は一般的になってきている。定時制高校間の情報交換は現在以上に活発に行われることにより、個別の困難な課題の解決の道筋が見えてくることも多くある。負担にならないよう配慮しつつ、定期的な情報交流の場が望まれる。

5 おわりに

本調査の結果、定時制・通信制課程は多様な学びのニーズへの受け皿としての役割をどのように担っているのか、より具体的に見ていくことができたのではないだろうか。生徒の課題解決の支援が心理や医療等の専門的な分野に及ぶことがあり、関係諸機関との連携が望まれる。そのためどのような方策があるのか。

例えば、ある基準にまで生徒の技能や理解を到達させる従来の指導と評価ではなく、一人ひとりの発達に寄り添い、その過程を見極める指導と評価は、既に昼間定時制の農業科では実践されていることが分かったが、そういった先進的に取組を進めている高校との情報交換の場がこれまで以上に望まれる。

ご多忙中にも関わらず、調査にご協力いただきました本部会加盟校の全ての副校長先生・教頭先生に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成31年度定通部会 事業計画（案）

● 北海道の事業計画

No.	事業計画	期日	会場
1	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会	平成31年 5月15日(水)	ホテルライフオート札幌
2	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会	5月15日(水)	ホテルライフオート札幌
3	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・ 研究協議会	6月 3日(月)	ホテルライフオート札幌
4	◆第51回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会	7月26日(金)	札幌北高等学校
5	◆第64回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会	10月10日(木)	札幌市教育文化会館
6	◆来年度 調査研究部報告（『会誌』掲載）	3月上旬	

● 全国の事業計画

No.	事業計画	期日	会場
1	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 校長並びに教頭・副校長研究協議会	平成31年 5月 7日(月) ～ 8日(火)	山形県立霞城学園高等学校
2	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	6月 7日(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター （東京都）
3	◆第71回全国高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会（全通研大会）	6月12日(水) ～14日(金)	長崎市民会館（長崎県長崎市）
4	◆第71回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 教育研究協議会（全教協大会）	7月25日(木) ～26日(金)	ホテルオークラ新潟（新潟県新潟市）
5	◆第70回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 （全振大会）	8月 1日(木) ～ 2日(金)	ホテルウェルビューかごしま （鹿児島県鹿児島市）
6	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会（地区通研大会）	10月24日(木) ～25日(金)	郡山商工会議所（福島県郡山市）
7	◆第67回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会	11月17日(日)	六本木ヒルズハリウッドプラザ（東京都）
8	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 教頭・副校長研究協議会	12月 5日(木) ～6日(金)	ホテル東日本星雲館・杜陵高校 （岩手県盛岡市）
9	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	12月13日(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター （東京都）

《編集後記》

定通部会における広報部の業務につきましてご理解・ご協力いただきありがとうございます。おかげさまで、本年度の「会報」も無事発行の運びとなりました。

編集発行にあたり、校務ご多用の中ご執筆いただきました校長協会定通部会長の蕨島校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生、そしてWEB更新にあたりご協力いただきました、北海道有朋高等学校の諸先生方にあらためて感謝申し上げ、編集終了のあいさつとさせていただきます。

[北海道恵庭南高等学校教頭 高橋 俊光]